

いやしの働き/次世代の働き（復興運動）
→Outsourcing-神の国（使徒1:1-8）

▶序論

▶誰もができることなのでいやしの働きを本格的にしてください。これだけが日本を生かし、世界福音化できる道です。霊的な病は誰でもいやすことができるのではなく、福音を持っている人だけができることです。これは経験がなくても実力がなくても結構です。ただやればよいと思います。そうすると多くの人々を生かす道が開かれると思います。そして、次世代の働きを本格的にしてください。これから実際に皆さんの教会と産業に復興運動が起きなければなりません。イエス様がこの奥義についてオリブの山で教えられました。

▶では、奪われた6つの内容の中で最後の部分はなんでしょう。それは Outsourcing です。この Outsourcing をどうしたらよいのか。これを持って行かなければなりません。全地域に入って行かなければなりません。この Outsourcing をどうしたらよいのでしょうか。いつ走ればよいのでしょうか。いつストップすればよいのでしょうか。これが重要です。神の国です。こちらが基準となります。

▶では、レムナント7人をお話しします。ヨセフの基準はどこにあったのでしょうか。奴隷になりました。神の国が臨まれたのです。そうですね。こちらが基準です。監獄の中に行きましたが、ただ黙っていたわけではなく神の国が臨まれました。それが基準です。何を待つのか。神の国を待つのです。これが見えなければ見つけなければなりません。これが遠くにあれば走るべきです。これが近くにあれば味わうべきです。それが基準です。どこの地域に行っても皆さんが行かれるところには、必ず神の国の答えが来ます。これが分からないだけで、分からないから逃しているだけです。イエス様が待ちなさいというのは神の国を基準として待ちなさいと言いました。この神の国の言葉が分かる人は、祈りの意味が分かります。この神の国が分かる人は、待つということ自体がなんなのか分かります。余裕をもって待ちます。そして、走る時も余裕をもって走ることができます。私たちが体が忙しいとしても、心が忙しくなはいけません。なぜなら、神の国のことについて40日間語られました。そこで「しかし、聖霊が臨まれるとき、あなたがたは力を受けます」と言われています。

▶必ずこれは来ます。この神の国が私たちの Outsourcing です。所々で起き上がるようになります。

(1) 伝道するタラップン - そこで皆さんがタラップンを新しく始めてください。いままでは、ただタラップンをしたと思います。単なるタラップンは区域礼拝と同じです。それはする必要はありません。講壇のメッセージを聞けばいいだけで更なる集まりは必要ありません。伝道を目的としたタラップンでなければなりません。一か所だけではなく転々と動いて結構です。また、やってみてここはだめだとなれば、そこは閉めて別のところでやっても結構です。目標は集まることではなく伝道に目的があります。

(2) 伝道をつなぐチームの働き - 必ずこの人を通して伝道はつながるようになっています。それらを指してチームの働きと言います。

(3) 家庭を生かす MH - 必ずこの人が恵みを受けるとその方の家族も恵まれるようになります。生かされます。それを指して MH と言います。

(4) 力を与える専門教会 - 皆さんがただでいるだけではなく、皆さんの会社や職場に神の国が臨まれます。それらを指して専門教会、または専門の働きと言います。

(5) キャンプをする地教会 - 完全に本格的なキャンプをまともにやることを地教会と言います。

▶人々は錯覚しています。またなにか集まると思っています。忙しいのに集まる必要はありません。メッセージなんてインターネットやたくさんの放送で聞けます。皆さんの教会の先生のメッセージを黙想すればいいのです。なんの生産性のない集まりをしているので、なにごともうまくいきません。例えば、今日、あの人の家でタラップンをやろう。その時、友人を集めて行きます。難しくやることなく、その現場に行っておあかしをするのです。理解できたらみことばを話せばよいのです。そうすると、その来た人を通して、また次につながります。それがチームの働きです。あの地域を完全に攻略して行こう。すると準備キャンプ、以前キャンプから、それ以降に起きるキャンプまですべて準備しなければなりません。ましてや、そこに行くべき弟子まで見つけておかなければなりません。そして、行く前にサミットになれるような人材がいるかどうかをあらかじめ確認すべきです。また、病んでいる人、病人はいるかどうかを確認すべきです。それをおいて実際キャンプをやって行くのです。行く前にすでに答えられた状態です。神の国です。これをやることを指して地教会と言います。そうすると、残りの15個の答えがってきます。これを合わせて20の戦略と言います。

1) レムナント7人 - エジプト、ペリシテ、アラム、バビロン、ローマ

▶では、レムナント7人が見たものは何でしょうか。

(1) エジプト - 皆さんもご存知のヨセフの兄たちは食べることに、着ることに、それを見たのです。イスラエルの人々は食べることにばかりに関心がありました。でも、ヨセフとモーセは違っていました。彼らはエジプトを見ていたのです。

(2) ペリシテ - サウル王は自分の地位、自分のポジションだけを考えていました。エリとエリの息子たちも肉的なことにばかり考えていたのです。サムエルとダビデが見たものは違っていました。ペリシテを見たのです。違います。

(3) アラム - ほとんどの主のしもべはギルガルやエリコを好んでいます。でも、エリシャは違っていました。アラムという国を見ていたのです。このように見る目が異なっていたのです。

(4) バビロン - ダニエルとシャデラク、メシャク、アベデネゴはとてもよいところについていました。彼らは自分のポジションを見たわけではありません。彼らはバビロンを見ていたのです。この神様の契約を握っている人は、見るものが違っていました。

(5) ローマ - 誰も話していないことをパウロは話しました。ローマも見なければなりません。皆さん、復興していかなければなりません。

2) 初代教会 - すべての場所、毎日、万民が祭司長

▶初代教会が見ていたことは違っていたのです。完全に違うものを見ていました。

(1) すべての場所 - ユダヤ人は偶像のようなヘロデの神殿に集まっていたのです。初代教会はあらゆる場所で集まっていたのです。すべての場所に。

(2) 毎日 - ユダヤ人は安息日だけを知っていました。初代教会は毎日御働きを体験します。違います。

(3) 万民が祭司長 - ユダヤ人は大きな大祭司長という階級を持っていたのです。でも初代教会は違います。万民が祭司長です。違うのです。だから、勝利するしかありませんでした。日曜日だけが主の日ではなく、毎日が主の日です。ですから、メリークリスマスではなく、毎日がクリスマスです。このように異なっていました。このように目が変らなければなりません。

▶最初にヨンドに行った時、行きたくて行ったわけではありませんが、教会堂もまともにありませんでした。でも、それは心配になりませんでした。信徒たちを訓練させる思いで信徒たちがいる家中心に30か所、タラップンをしたのです。タラップン一つで信徒の家を訪問して養育もできてすべてができるようになりました。そこで賢い若者たち、若い奥さんたちにみことば運動をさせて養育させました。それが300か所に増えて行ったのです。そして、2年間やりましたが千人の弟子が起こされました。いくらでもあります。いま私が祈っている部分があります。教会の役員の方々が三千人くらいいるのですが、これを、スタイルを変えなければならぬと思っています。すべての副教役者が現場で牧会ができるようにして行こう。どうしてでしょうか。なぜなら、羊飼いをしていかなければなりません。すべての多民族の指導者が自分の牧会がなければなりません。すべての副教役者が一生この教会にいたい、そのような教会にならなければなりません。いまの副教役者はいつどこにいかうと、虎視眈々とチャンスを狙っています。自分が行けるところを探しているのです。なぜなら自分の教会で待遇がよくないと思うからです。そういう部分を更新しなければなりません。続けてこのようなお話をしているのですが、なかなか理解されていません。もしこう言ってもできなければ無理やりにも変えなければならぬと思っています。いくらでも現場はあります。

3) 宗教改革 - 一般信徒運動

▶宗教改革の特徴があります。それは何でしょうか。宗教改革の特徴。福音回復もありますが、特徴があります。宗教改革は一般信徒の運動であったのです。これが異なる部分です。実際にカトリックが司教たちの運動であるならば、この改革教会は一般信徒の運動です。どちらの方が合っているのでしょうか。神様が見るにはどちらのほうの方が合っているのでしょうか。この一般信徒運動が正しいと思います。ですから、一気に覆されました。神様の契約に従いますとそのようになります。

▶本論 - Outsourcing をどのようにして、神の国どのように成し遂げるのか

1. 昔の枠を壊せ

▶一つ目です。昔の枠を壊すべきです。どのように壊すのでしょうか。

1) レムナント7人

▶レムナント7人によって昔の枠が壊されました。

2) バビロン

▶バビロンに行った捕虜たち

3) 初代教会

そして、初代教会の弟子たちが皆昔の杵を壊したということです。

▶皆さんの教会は何人お集りになっているのでしょうか。大体の教会の人数があると思います。例えば、30人、または100人と集まると思います。実は30人集まる教会は30人しか集まらない杵があるのです。それを壊さなければなりません。昔の杵は完全に壊さなければなりません。私は教会側の昔の杵を壊すために続けて、続けて説明をしています。昔の杵を壊さない限りいけません。例えば、なんとかして壊れた人もいます。自分の知らないうちに何かが壊されたからうまくいきました。壊されていない人は本人も気づいていません。壊されていません。例えば、牧師先生が教会のすべての管理の鍵を持っている。それでは絶対復興できません。その人は教会の管理人にしかならないのです。牧師先生が牧会をやるべきで管理人になってはいけません。教会で予算すべてを牧師先生が管理するならば、絶対に小さな教会から免れません。これは参考にするべきです。では、それについて知らないべきなのか。分からなくても気にならなくてもいいくらいの教会でなければいけません。教会が大きくなれば予算など牧師は分かりません。とにかく昔の杵を壊すべきです。滅亡の杵など持っている必要ありません。壊すべきです。

2. 実際

▶これを实际的にやるべきです。

1) 昔の杵 - 運命

▶实际的にこの杵を壊すことによって運命が変わります。

2) 新しい杵 - 災い

新しい杵を備えることで、災いが崩れて行きます。これはすごい内容です。昔の杵を壊さない限り運命からは逃れられません。新しい杵を備えた時、わざわいが砕かれます。

3) 使徒 1:3、ガラテヤ 2:20、ピリピ 3:8-21

重要なことは昔の杵を壊し新し杵を備える。どのようにということです。

(1) 使徒 1:3、すでにまず私たちはキリストを持っています。すでに聖霊の導きを受けられる人なのです。昔の杵を壊すことはまさに 1:3 です。神の国です。つまり、サタンの国のことを完全に打ち壊すということです。教会に行きますといらない紛争があるのですが、それを全部、サタンの国を壊さなければなりません。

(2) ガラテヤ 2:20、これが新しい杵を備える重要な鍵となります。とてつもなく大きなものがあります。

(3) ピリピ 3:8-21、キリストに発見されたいと言われています。キリストに認められたい。救われたのにどうしてなのですか。私の働きが、私の産業が、キリストに発見され、キリストに認められるということです。キリストの手に捕らえられた。そのために私は走り続けるのだということです。地上のものではなく上から召されたその報いのために走るということです。私たちの背景はどこでしょうか。私には天の国籍がある。偉大なる内容です。御働きが起きるしかありません。それとともに、皆さんはいやしの働きを継続することです。そして、レムナントの働きをずっとしていくのです。復興になるしかありません。

3. 未来

▶確実な未来を見つけるべきです。確実な未来。

1) エジプト - サタンの奴隷/バビロン - サタンの捕虜/ローマ - サタンの属国 (福音回復)

▶出エジプトそんなに重要なことではありません。出エジプトが重要なわけではなくサタンの奴隷になっていることが問題です。バビロンから出た、それが重要なわけではありません。サタンの捕虜になっていることが問題です。そうだと思います。ローマから逃れたことが問題ではありません。サタンに完全に属国にされているということです。これを見なければなりません。そうすると黙っているだけで答えられて来るようになります。未来を確実に見ていくべきです。どういう意味でしょうか。福音回復を指しています。エジプトから出て来てどうするのでしょうか。福音回復をしなければなりません。福音のないイスラエルの民は、エジプトにいようとそこから出ようとどうしようと状態が変わっていないのです。同じようにサタンの奴隷の状態であるのです。これを早くキャッチしなければなりません。なるほど、福音回復が鍵だということです。

2) 戦争 - 伝道回復

▶そして、たくさんの戦争が起きました。これが重要なわけではありません。伝道回復です。

3) 宣教回復

▶どうして強大国で捕虜になったのでしょうか。どうして強大国に行って、このように虐げられているのでしょうか。簡単です。宣教回復を指しています。

▶結論 - 62 の人生

▶これをもって Outsourcing をしていくべきです。神の国の Outsourcing、その方法です。これを持っていただきたいと思います。

1) 使徒 1:1、3、8

▶どこにしようとキリストの契約を握って祈るならば必ず神の国が臨みます。すると、必ず証拠が与えられます。証人となります。こちらが私たちの Outsourcing です。そこでどこにしようと祈っていれば必ず 1、3、8 の答えが現れます。

2) 天命、召命、使命

▶その時「ああ。これは絶対に神様の計画だ」ということが見えます。なんでもかんでも熱心ではなくこれが絶対的なものだ。それを見つけるべきです。私が神殿建築をおいて祈った時に、神の絶対計画は何か、その単語を見つけました。私の人生で最初であり最後である。そうだと思います。ほんとうに。皆様の人生にとって最初であり最後である建築を。このような意味がそこにあると思います。そこで絶対ということを見つけるべきです。これを指して天命、召命、使命と言います。

3) 当然、必然、絶対

▶この契約を味わっていると、「どうしたらいいのだろうか」というのがなくなると思います。当然やるべきだったということになると思います。そうだと思いますか。当然、必然、絶対ということになります。

4) 一心、全心、持続

▶この契約を握ると、どこに行こうと一心で行こうということになります。そうすると、全心であり持続できるようになります。このときから答えられて行きます。

5) ただ、唯一、再創造

▶ただ、唯一、再創造の答えが来ます。

6) 24 時、25 時、永遠

▶ほんとうの祈りが成り立つようになります。24 時、25 時、永遠。

7) 刻印、根、体質

▶そのときに私の中にあった刻印、根、体質が変わります。

8) 5 つの祈り

▶このときから祈れるようになります。祈りが楽にうまくできる人は、刻印、根、体質が、それくらい変っていることという証拠です。それが変れるように続けてやっていただきたいと思います。

9) 7 つのタラント

▶そのときにこそ神様が造られた私、私のもの、私の現場が見えるようになります。

10) 9 つの流れ

そのときからはどこに行っても流れを取り替えられるようになります。

11) 20 の戦略

▶そのときから私の人生すべてが伝道に用いられるようになります。皆さんの産業が伝道に用いられた。それが最高の答えです。皆さんの財産が伝道に用いられた。それこそ最高の答えです。残りのすべては意味のないものです。皆さんが天に召されたそのときから、もうその財産はいらないものになります。

▶この祝福を味わう Outsourcing を指して、62 個を Outsourcing させることができます。続けて、続けて働きが起きます。

▶こちらを始めてください。いやしの働き。次世代の働き。ほんとうの復興運動。熱心にやって復興にしなければ無駄なことではありませんか。外に出て熱心に働いたのにお金が儲けられないなら無駄です。昔の粹さえ壊せばすぐさま御働きが起きます。30 年間、皆さんとともに伝道運動をしてきました。30 年過ぎてもうまくいかない人がいます。救われたのにもかかわらず。それは昔の粹をそのまま持っているからです。皆さんにどれほど新しい祝福が多いのでしょうか。この（序論）祝福は偉大なるものではないのでしょうか。皆様が受ける新しい祝福はこの序論 3 つにあります。そして、結論の部分です。残りは全部壊していくことです。今日から皆さんの生涯にとって重要な答えが始まると思います。契約さえ握れば、契約さえ正確に握れば、そうすると答えは始まります。日本を生かす皆さんであることを主の

御名によってお祈りします。

(祈り)

神様、感謝します。この契約が私たちの中に、多くの日本人の方々を生かすところに用いられますように。まず私自身から恵まれる開始になるようにしてください。神様から与えられる力を得るきっかけとなりますように。日本を主がいやしてください。次世代をいやしてください。教会をいやしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。